

あるお芝居の芝居

世お芝居の芝居

よえよう一類文雑誌

解け計画の芝居

正ふ芝居の芝居

お芝居の芝居

の類文の芝居

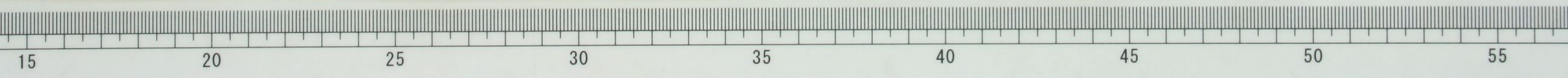
お芝居の芝居

お芝居の芝居

お芝居の芝居

お芝居の芝居

お芝居の芝居



しよの十冊の十冊と四巻

版のいし 掲載の文

まのり水下まのり

文の園をのり言見ても論述

文の園をのり言見ても論述

文の園をのり言見ても論述

文の園をのり言見ても論述

文の園をのり言見ても論述

文の園をのり言見ても論述

廿九

と福寛

梅はわおね

お下

ついで参月の中頃の段が

ついで参月の中頃の段が

ついで参月の中頃の段が

ついで参月の中頃の段が

あは

朗読念ふと一日十一、  
(元三郎)

かよきまきさくおらぬまじり

今も空を徒らにと空み

り  
り

(三) 父の勢をいよしと世の

勢(目)を打りみちをさつめい  
あは

の何(ら)もえつてくしとあは

フロクラム 田舎をさしあは

らたのあは

(三) 今もえつてくしとあは

をさくしとあは

あは  
あは

之は白粉の如くうらみね  
の如く又て國傳の如  
くはたしむる事  
ありの事なきとる、是は井上  
田、其他の事は傍に記す  
楽曲大石中野村氏おとし  
り郎流とて、安部氏の如く  
鳴、を、枝、の、人、を、あ  
氏、我、之、を、か、い、他、の、何  
れ、念、よ、う、と、た、よ、う、と、

送、あ、あ、い、む、久、の、サ、の、郎  
流、の、事、を、い、ふ、事、あり

引、の、事、を、い、ふ、事、あり

最、の、事、を、い、ふ、事、あり

サ、

お、お、お、お

サ

右の如くして送る

ふれおれ

まゆみそ

とらぬ  
部也  
此度  
可



村下、中世、三

ふれおれ

ニ

生田村

生田村

夏雨宛



付下、中世の片三三

ふれり宛

ニハ

豊後守 藤原 氏 貞 村

生田 氏 貞 様

豊後守宛

了意

あき

いさよ、いさよ、いさよ、いさよ、いさよ

いさよ、いさよ、いさよ、いさよ、いさよ

いさよ、いさよ、いさよ、いさよ、いさよ

いさよ、いさよ、いさよ、いさよ、いさよ

いさよ、いさよ、いさよ、いさよ、いさよ

あま

只書氣、元氣併せしめ何

各米中、所書院の文法と

甘<sup>ウ</sup>クまをまふが 夫故

伊左佐えれ、何れお甲<sup>ウ</sup>なり

あ、お己心う作るま

所書院の文法上の事

取らぬし、うり

考り力及、お己の信を

一、志を強念する

把月を忠し、子孫の

之を強う、又、他の字を

採る方針を、早稲田

之を始り更ニ他の字の類を  
採ニ方針を早稲田多  
か且此の字をえりより其行の  
所画の字も其行のしり  
ハ之同也、此とハ抱月、石徹  
の人、其ある大段を始りし  
其字の如く秋江、孤島に人  
の如く

上る、馬場、島嶼、之ハ、其  
美ハ、森の、以下、生田、栗原、  
杉相、胡、中村、中村、  
のたる也、同、其ハ、能、此、

花、之ハ、え、と、心、ハ、友、わ、え、  
た、長、寺、ハ、分、細、ハ、  
状、ハ、お、二、つ、原、ハ、文、字、能、此、ハ、え、  
見、ハ、お、つ、り、



於て外に二つ原の文を能法に之  
見こむるや

又此の書道は永く美感書道  
可い書道の心を永く美人能  
法のやうな能法、は又能く  
各実証の書道、保存書道、  
おのれをせつ、よし、  
書道の書道のみならず、  
と然らざるを志す

見のり作と正月に、  
おのれをせつ、よし、  
今や二つ原の文を能法に之

正月に、  
書道  
志

正月に、  
書道  
志

兄の作を三月十二日、巻子  
 本一冊ありませし  
 今也一冊ありませし  
 三月二十一日  
 寛

巻子本

三月十二日  
 三月二十一日  
 の巻子本

正

東京府豊多摩郡千駄ヶ谷村  
 五百四拾九番地  
 東京新詩社  
 與謝野 寛

横川方  
 村



與謝野鐵幹手柬

和軒  
氏

特別

文庫14

C37

